

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第10回）「表現力の育成」部会 要点録

開催日時	平成22年4月23日(金) 午後3時00分～午後4時20分	
会場	練馬区役所本庁舎19階 1907会議室	
出席者	委員	村松賢一、荻部一夫、当間一則、山口義一、加藤芳和、武井和幸、井上康子、武者裕子、三浦秀樹、根本喜代江（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	五十嵐浩子 統括指導主事、谷川拓也 指導主事

事務局

今年も資料作成委員会にご協力をお願いしたい。昨年度は中間報告という形で資料を作成したが、今年度は開校に向け実際の指導案や指導計画の作成にあたっていただきたい。

これからは具体的にどのようなことができるか議論していただく。表現力については様々な可能性があり、枠を決めていかなければ広がりすぎる面があるので去年の資料を見ながら作成していきたい。今回10月29日という期限があり、12月には学校に対しある程度の情報を提供したうえで4月に開校となる。昨年よりタイトなスケジュールになるが協力をお願いしたい。

変わられたメンバーもいるので自己紹介をお願いしたい。

ー継続委員、新委員、アドバイザーそれぞれ自己紹介ー

事務局

今日は10月までの活動の見通しとどんなことができるかという概要の確認をお願いしたい。

中間報告書ではまとめきれなかった最後の部分を部長、副部長と私であのような形とさせていただいた。厳しい日程ではあるが去年の報告書に基づいて実践例を作っていくと思う。予定している部会は10月までの間に最大9回だが、実際にはそこまで時間をとれないと思うので、回数に関しては部会に任せてもらっている。去年並みのペースだとすると5・6回になるかと思う。ただし本区は2期制なので学期末の成績処理などを加味するともっと早めにまとめなければならない。とりあえず今日は次回5月の日程を決めていただきたい。また、全体のまとめを行う統括指導主事と私がオーストラリア海外派遣の事務局を担当することになったため、7月中、下旬は日程が取れないのでその点ご配慮いただきたい。

次に資料2のプロット案だが、前回と大きく異なるのはワークシート、資料編を作ること。著作権の処理が必要になる場合もあるので、ワークシート等に著作物を使用することがあれば事前にお知らせいただきたい。

資料3のカリキュラム一覧は各部会の指導案ができた後に事務局で作らせていただく。2、3週間は時間が必要なので9月中にはある程度の見通しを立てていただきたい。

資料5は学習指導案(案)だがこのような形で作ることをイメージしてほしい。本部会では四つの指導項目があるのでそれぞれにどんな活動が考えられるか、アイデアを持ち寄っていただきたい。

部長

何か質問はあるか。

委員

各部会で70ページということだが、学習指導案をいくつ作るというのは決まっているのか。指導項目が四つあるので最低四つは作らなければならないと思うが。

事務局

数としては示されていない。

委員

4項目を行き来しながら子どもを育てることを考えてきたので、項目ごとの実践例を出しても9年間で育てる子ども像は出てこないのではないかと。むしろ一つの指導事例に全ての項目が入ったものが、徐々に大きくなっていくというのが私たちの部会が目指すものだと思う。

部長

同感だ。特に重点を置くということなら分かるが、四つの領域で4種類作るというのは違うと思う。

事務局

一応四つの領域は意識してもらいたいと思う。

部長

領域ごとという話もあったが、マトリックスではⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期があるので期ごとに複数の指導案を作る必要もある。各期で複数の指導案を作るとすればⅢ期に比べⅠ期、Ⅱ期の数が多くなるのではないかとイメージできる。

部に与えられたページが70ページとすれば「4学習指導案・ワークシート」に使えるのは何ページになるのか知りたい。授業によっては1単位時間だけの飛び込み的なものもあるが、スモールステップできちんと身につけさせたいという授業構成の場合、ページ数も増えてくる。

委員

四つの領域と各期にリンクした指導案を作るとすると、それだけで12ということになる。それを複数でと考えると大変な数になる。せいぜい12程度ではないか。

部長

単純に10としても一つあたり6ページぐらい。1、2ページが指導案で残り4ページがそれに関わるワークシート、指導資料、指導のポイント。この冊子は教科書ではなく教師用指導書的なものになるので、指導上の留意点なども含まれると考えていいか。

事務局

赤本のように細かいところまではいらないが、そういうことになる。

部長

指導書の要素として指導案は当然として、教材のもつ意義や指導上の注意点なども大事な要素である気がするが、それらは指導案の後にある資料というところに書けばいいのか。

事務局

ページの割り振りの問題なので各部会で統一しておかなければならない。確認してもう1回示させていただく。

部長

この部会だけではないと思うが、活動例的なものとして実践されている写真を冊子に載せたいという場合は可能か。

事務局

撮影者や被撮影者の著作権上の許諾があれば可能だ。

部長

著作権上の処理は別として費用の問題もないか。

事務局

製造に関する費用の問題はない。

委員

事務局が作る資料4「各学年の時数配当一覧」があるが、10の指導案ができたとすれば、偏らずに上手くばらまかれているように考えなければならないのか。

事務局

そこまでは考えなくてもよい。

部長

それよりも資料3「カリキュラム一覧」で活動例が偏っているのはまずいと思うので、分散して作らなければならないと思う。

アドバイザー

先ほど特設単元になる場合もあるという話があり、私は表現科目を特別に作るということではなく、国語科を中心に既存の各教科や領域の学習の中に当てはめていくという感じで受け止めていたのだが、そのあたりはどうなのか。

事務局

教科は学習指導要領があつて指導内容ががっちり決まっているので、本部会では道徳、特別活動、総合的な学習の時間での活動を中心に考え、活動の内容によっては各教科との関連があるというとらえ方をしている。

委員

表現力の部会では指導案の総時数を何十時間にするというのはあるか。それとも指導時数については考えなくていいのか。

事務局

他の部会からどういうものが出てくるかまだ分からないので、今は考えなくていい。

部長

他に質問がなければ、それぞれイメージしている授業があるのではないかと思うので、おぼろげでもかまわないので簡単に紹介していただきたい。

委員

総合的な学習の時間で石神井公園に行き、気づいたことを発表し、調べたいことを見つけて人に聞いたり資料集めをする。それらをもとにグループで調べたことをまとめて発表するというようなことを実際にしており、調べる力や組み立てる力、表現に関する技能も入っている。こういうものはそのまま生かせるとイメージしているが、石神井公園だと桜小では使えないと思う。練馬区全体として考えてよいのか。

事務局

石神井公園にはふるさと文化館もできているので、各校が区内巡りなどで行くのでは思う。いろいろな活動の可能性は広がる。

部長

いまの話だと1、2時間の話ではなく単元全体のことになってしまう。しかもそれぞれの場面で、こういう力を主に身につけさせるということに。

委員

それを全部やってしまうと何十ページもいってしまうので、指導計画は全体的にやって、指導案は特に重視するところを2、3時間程度にすればよい。

委員

総合の時間の職場体験では二日間グループで職場の体験をする。八百屋さんなら実際に売ったり、野菜を切ったりする。今やっていていいものは入れ、空いているところを考えていってはどうか。中学校で思いつくのは職場体験と修学旅行の事前体験だが。

委員

キャリア教育の推進とかぶってしまうのではないか。他の部会との兼ね合いがあると、考えていくのが難しい。

委員

とりあえずかぶりは考えず、出してみてもどうか。

委員

中学3年生と小学6年生の2クラスを縦割りにして、それぞれ1曲ずつ歌う。その間を10分程度の劇などストーリーのある出し物を出し合う音楽会なども考えられる。合唱コンクールとなると時間がかかりすぎるが、これなら時間をかけずに面白い見せ場ができるのではないかと思う。

委員

小学校では2分の1成人式をやるが、できれば小中一貫で一緒にやる良さを出したい。それぞれの期にこれをやるというのもあるとは思いますが、2分の1成人式をⅢ期のお兄さんお姉さんに見てもらおうなど、新たなもので指導案を作るのがいいのか。これまでのものをそのまま載せるのか。そのあたりはどうか。

部長

今までのものを活用しつつ、小中一貫したカリキュラムの特質を最大限生かすため、異学年が同じ学習を通してそれぞれの段階の力をつけられれば一番良いと思う。

委員

今日うちの小学校では2年生が入学したばかりの1年生をいろいろなところに案内する学校案内をしているが、7年生が6年生、あるいは8年生が7年生を案内するということなどを小中で取り組めないかと思う。

委員

以前、中学生が小学生を部活に体験入学させてあげるような取り組みがあり、その際に資料を用意するなどコミュニケーション能力に関するものを組み込むのは可能と思うが、部活の時間は入ってこないのか。

事務局

部活ではなく選択体育の内容を中学生が小学生に教えて一緒にやるという例はあった。中学生が教科やスポーツを指導するという可能性はあると思う。

委員

前任中学校では隣の小学6年生が合唱コンクールを聞きに来ていた。合唱の力は学年が上がると全然違うようで、上級生の素晴らしいものを聞くと結構伸びるらしい。9年間という年齢

差があるので上の者が下の者に何かを伝えていくということがあれば、小中一貫の良さが出てくるのではと思う。

部長

うちの学校でも生活科で学校探検をしている。校長室にも来て2年生が1年生にいろいろなことを説明してあげる。いつもは私が説明してしまうのだが、今年は担任と相談し、子どもが子どもに説明するようにした。またTPOを意識した挨拶や話し方についても事前に担任から指導してもらったら、雰囲気がすごく良くなったと感じる。

表現力がついたかどうかを数値化することは難しいが、この活動では指導者がどういうことを注意して指導すれば表現力がより高まってくる、というのが大事だと思うので、指導案のうしろの資料にはそういうことをぜひ書き入れていきたいという気がする。

国語的な話でいえば、「言葉を組み立てる」では「つなぎ言葉」や「最初に結論を言い、あとから理由を言う」といった言葉を通したコミュニケーション力を身に付けるための題材や活動、こういう話し合い方をさせたほうが力はつくということが大事になってくると思う。この活動は四つの柱の中で重点的にはこの力をつけることだが、別の力をつけるためには教師が意識的に指導しなくてはならないなど、指導案にきちんと取り上げていくことが必要だと思う。

委員

うちの小学校も学校探検では2年生が1年生に説明させる。そのためには2年生が下見をして、調べたいことを見たり聞いたりしながら原稿を作っていく。そういう活動を取り入れながらやっていくことが表現力を育てるのに生きてくると思った。

アドバイザー

最初の作業として軸を作るのが大事だと思う。各期に狙いを設定してはいるがあまりにも漠然としているので、どのような観点が必要かを整理した方がいい。先ほどの校長先生の話でいえば表現活動で学ぶのではなく、表現活動を学ぶ時間も必要だということだと理解する。「組み立て」というのがどういうこととか、「調べる力」でアンケートはどういうふうにするのか、という学習は必要だと思う。大きく分けると指導事項をそのまま学ぶ活動と、それを生かした活動の二つくらいになると思う。

国語でもコミュニケーション関係の教材を作るときに、ある程度活動を類型化することができ、そうしないとただの思いつきになってしまう。今の段階では子どもが食いつきそうな面白い活動を出していき、あとから整理していけばいいのではないかな。

また、縦の連携や一貫という視点で考えるのは、教科の教材を考えるのとは全く違った観点で大事だと思う。先ほどの小中の合唱の話も私が考えてもみなかった分類の観点で、ありだと思うが、あれこれ考えていくとどういう軸で整理したらいいのか難しいと思った。

部長

最初からあまり難しく考えないで、子どもたちが食いつきそうな面白い活動というのが大事だと思う。こういう活動なら楽しいだろうとイメージすることは他にないかな。

委員

うちの学校では全教科と活動で言語力をつけるということを意識してやっている。保健委員会ならインフルエンザについて調べ学習をし、くしゃみや咳がどれくらい菌を飛ばすのかというようなことを、大きなマスクをつけてコント仕立てで朝礼の時に説明したり発表したりする。また、言葉だけでなくキーワードを書いたものを挙げながら、難聴生にも配慮して活動報告をしている。

部長

今のお話には全校生徒に分かりやすく伝えるための表現の工夫があり、そういったことを意義づけて冊子に書くことが必要。ただ単に活動を集めるのではなく、活動自体がどういう意味をもっているのか指導者側に伝えられるような冊子にしなければならない。

アドバイザー

以前、区内の小学校で全体集会の時間に6年生が寸劇で挨拶の仕方を教えるのを見た。6年生が講師として、いろいろな例を見せるなかで何が良くないかを下の学年に呼びかけていく。活動型ではなく挨拶だけ取りたてた学習だが、発展形が考えられ面白いと思った。

部長

今のような活動例もぜひ入れたいし、同時に石神井公園の例のような長い単元を通してやることも必要だと思う。そろそろまとめていきたいが、次回までに何をどう考えてくるか。

アドバイザー

分担を決めた方がいい。

部長

では、中学の先生はⅡ期からⅢ期のあたりで、小学校の先生はⅠ期からⅡ期にかけて交流が図れたり、実践していることをバージョンアップさせたりして考えてきていただきたい。併せて活動の大まかな流れや指導のポイントみたいなものを、委員会のメンバーに伝えやすい形でお願したい。活動の写真などを持ってきてプレゼンしていただいてもかまわない。

(第11回小中一貫教育資料作成委員会「表現力の育成」部会 日程確認)

5月13日(木) 16:00～

場所：練馬区役所本庁舎 12F 教育委員会室